

平成 22 年 7 月 1 日

**業務用モバイルコンピュータの 3G 携帯通信サービス“ AINIX MOBILE ”を MVNO と
して 7 月から開始。MVNE の日本通信株式会社と業務委託契約を締結。**

自動認識システムのアイニックス株式会社（東京都目黒区大橋 1-6-2 電話 03-5728-7500 代表取締役 平本純也）は、MVNE（仮想移動体通信提供事業者）の日本通信株式会社（品川区南大井 6-25-3 代表取締役 三田聖二、以下「日本通信」という）と業務委託契約を締結し、MVNO（仮想移動体通信事業者）として、NTT ドコモの FOMA 網を使用した 3G 携帯通信サービス AINIX MOBILE（アイニックスモバイル）を 7 月から開始します。

アイニックスは、様々な業務用モバイルターミナルを販売してきましたが、3G データ通信機能を持ちながら既存の通信網に接続できませんでした。業務用モバイルターミナルは、構内の無線 LAN ばかりでなく屋外までシームレスな通信が望まれています。そこで、アイニックスは、4 月に総務省から MVNO の資格を取得し、この度、日本通信から通信サービスの提供を受けることができるようになりました。これにより従来、モバイルシステムの構築までで終わっていたサービスが、安価な 3G 通信サービスも提供できるようになりましたので、統合的なお客様サービスが実現します。

現在、本サービスが適用できる業務用モバイルターミナルは、モトローラ（株）のモバイルコンピュータ FR68、FR6000、MC75 と（株）シーエスイーの業務用 PDA の PIT21 です。アイニックスは、日本通信と協力して対応機種を積極的に増やしユーザのニーズに合ったモバイルターミナルを提供できるようにして参ります。また、通信サービスは、定額プラン、従量制プラン、定額と従量制を併用したプランなど、お客様の通信量に適した料金プランを提供します。今回の通信サービスが適用できるモバイルターミナルは、下記のとおりです。



（参考）MVNO（仮想移動体通信事業者 Mobile Virtual Network Operator）は、独自の移動体回線網を持たずに、携帯電話などの無線通信インフラを借り受けてサービスを提供する事業者のことで、無線通信サービスの免許を受けられるのは、3～4 社程度しかないので、免許を受けた事業者の設備を利用することで、免許のない事業者も無線通信サービスを提供することができます。MVNE（Mobile Virtual Network Enabler）は、MVNO の構築を支援する事業を営む者を意味します。